

一般財団法人 日本航空協会

令和6年度事業報告および令和7年度事業計画

令和6年度事業報告

令和6年度の世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵略の長期化や中東地域の紛争等の不安定な状況が続き、世界各国の保護主義が台頭し、国際協調が後退するなど、政治、経済面での混乱が続きました。

我が国の経済面では昨年3月にマイナス金利の解除以降、企業投資に回復が見え、大幅な賃上げが行われ名目GDPが初めて600兆円を超える等、緩やかな景気回復基調にありました。航空輸送については、コロナ禍前を上回る訪日外国人の勢いもあって国際線を中心に人の動きや物流が活発さを取り戻す一方で人手不足の課題等コロナ禍後の対処に追われる年となりました。

このような中で、当協会としては精力的に各事業に取り組みました。まずガバナンスコードの理念に則り、基本事項を定める「コンプライアンス規程」を年度当初に制定し、社会的信用の向上を図る体制の構築に努めました。

文化事業では、「航空と宇宙」定例講演会は4回開催し対面とオンラインで約1,600名の参加をいただきました。航空図書館は、来館者がコロナ前の水準に戻りました。航空遺産継承事業では「重要航空遺産」の選定や保全活動を積極的に進めることができました。毎年「空の日」に開催している日本航空協会表彰式では、日本航空協会賞及び国際航空連盟賞を計8名、3団体に授与しました。

航空スポーツ事業では、各航空スポーツ統括団体を中心に世界選手権出場など活発な航空スポーツ活動が展開されましたが、一方で、航空スポーツを取り巻く環境は刻々と変化しており、気球法制化、ドローンとの空域棲み分け、eスポーツへの対応、高齢化による会員数減少など、解決すべき多くの課題を抱えながら、航

空スポーツが現状どおり永続的に発展していけるよう環境整備に注力した1年でした。

国際線発着調整業務では、中立性・公平性・透明性に留意しつつ、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5つの混雑空港に就航する国際・国内定期便の2024年冬ダイヤ及び2025年夏ダイヤのスケジュール調整を適切に実施しました。

各事業の財政基盤でもある航空会館は、老朽化した外壁面等の大規模修繕や省エネのための全館LED化を実施するなど適切に維持管理しつつ、予算を超える事業収入を確保しました。

令和7年度事業計画

令和7年度においても、各事業における収入の確保や、協会への支援拡大と事業の効率化、組織の活性化をはかり、竣工から47年を迎えた航空会館の修繕を着実に実施しつつ、残存する借入金を返済し、財政健全化にも努めてまいります。

110年を超える航空の歴史を守り続けるとともに、航空宇宙関係団体との緊密な連携のもと、航空宇宙の進歩発展に一層寄与できますよう精進してまいります。また、将来の人材として若年層に対して航空・宇宙産業に興味を持ってもらえるよう、航空・宇宙の魅力発信を積極的に行います。以下の4点を重点項目として事業を推進してまいります。

- 収入の確保、事業の効率化や組織の活性化に取り組むことで安定した事業展開を目指す。
- 関係先との協力を深め、事業の活性化や、新たな取組、情報発信の強化を図る。
- コンプライアンス体制を整え、健全な組織体制のもと堅実に業務を遂行する。
- 計画的に老朽化した航空会館の安全性、機能性を確保する。